LiSA Supporters
会長通信
2023 Vol.8

春風駘蕩

いよいよ冬休みに入ります。さて、今年の干支は「癸卯」(みずのと・う)でした。停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年だそうです。確かにコロナ過から抜け出し人の活動が戻って来ています。また、今年を表す漢字は「税」でした。皆さんはどう感じましたか。

親子のコミュニケーションを考えてみよう！

年の瀬、師走です。私はまだ、ピンと来ません。そんな12月ですが、16日に相模原中等教育学校PTA主催のコミュニケーションについての講演会があり、頼み込んで聴講させていただきました。今日はその一部を紹介したいと思います。なお、内容については講演者の方に承諾を得ています。

相模原中等教育学校PTA講演会　コミュニケーションについて

講師：㈱L.E.H（Life.Enjoy.Happiness）代表取締役

1　コミュニケーションレベル

2　子どもの成長と親子のコミュニケーション

3　子どもの可能性を見つける

1　コミュニケーションには言語を伴うものハーバルコミュニケーション（主に会話。）と言語を伴わないものノンハーバルコミュニケーション（ジェスチャー、視線、表情、声の大小で交わす。）があります。
その相手が発信する情報を受け取る際の優先順として言語は全体の7%、近言語38%、非言語55%であると云われています。（アルバート・メラビアンの法則）この法則は言語、聴覚、視覚のバランスが崩れた状態で発信された時に何が優先されるのかを調べ、その結果、非言語による情報を優先する傾向が大きいことが判明しました。

近言語とは声のトーン、声の大小、相槌、話す速さ、話すタイミングなど発話に伴う領域のこと。

非言語とは話し振り、しぐさ、ジェスチャー、動作、顔の表情などを示します。

それでは、人が見知らぬ方と仲良くなるまでの流れを垣間見て見ましょう。（感情の交流の流れ。）

よく顔を見かける。もしくは間接的に知り合いの方と同席された方とコミュニケーションを取るとき最初に何をしますか？
「こんにちは。」「初めまして。」と挨拶を交わすこれから始まります。→気軽な挨拶の段階。

何度か顔を合わせるうちに相手に対して関心を抱きます。相手の好きな事や趣味が分ると、その関心ごとに因んだ話をするようになります。→情報交換の段階

さらに気持ちが通じ合う様に、相手の事、自分の事を聞き出したり、尋ねたりします。

そこで、共通の話題が見つかると更に「この前それ買って見たんだけど。」「え！本当、なかなか手に入らないでしょう。」「どうだった？」など会話が弾んで来て、友好な関係性が築かれ信頼関係が出来上がります。→本音の交流の段階

※情報交流の流れ＝気軽な挨拶の段階→情報交換の段階→本音の交流の段階

2　親子の関係性と成長期のコミュニケーションについて考察して見ましょう。

二人一組で実験をしてみましょう。あなたは子どもに成ることは出来ないので椅子に腰かけ、相手は起立した状態で目を合わせます。お互い相手の表情はどう見えますか？更に起立した方は座っている相手を指差し注意をする仕草をしてみましょう。如何ですか、起立している相手は怖く感じ、相手から、あなたは憔悴

して幼く見えるのではないでしょうか。

今のあなたの状態が自分のお子さんだとしたら！起立している相手が普段お子さんの見ている自分の表情だとしたら！さて皆さん、自分の子が小さいとき子どもが、いたずらをしました。あなたは「怒ってないからこっちにおいで！」と言っても表情や目が強張っていたら、お子さんはどう判断するでしょうか？

その通りで、「めちゃめちゃ怒ってるやん！」となる訳です。つまり、発言した「言葉」より仕草や表情から読み取れる情報が優先されたことになります。

ここで、時を今に戻しましょう。お父さん、お母さん息子さん、娘さんと良い関係を築けていますか？「いやぁ～もうすっかり大人の体格だから好き勝手にさせてるよ！今じゃ口も利かないし。」「うちの子はやることなすことまだまだ子供で怒鳴ってばかりで、私の言うこと聞いてればいいの！」という言葉はよく聞く様ですが、待って下さい。この二つのパターンはいずれもダメなケースです。

前者は放任主義的で親子のコミュニケーションがゼロの状態、お子さんが心の黄色信号を出しても見落としてしまいます。後者は過干渉によくあるケースで子どもの成長を阻害してしまします。では、どの様に接することが望ましいのか考えて見ましょう。生まれてから成人になるまでのおよそ 20 年という時間の中で成長して行きます。

この成長する過程の中で心と体の変化が大きく変わる時期を反抗期と呼び、心理的成長変化の大きい時期（中学生の頃）を思春期と呼んだりしています。乳児期、学童期、思春期、青年期の中で乳児期を過ぎ幼児期ころを第一反抗期、学童期に起こる反抗期を中間反抗期、思春期の頃を第二反抗期とされています。反抗期は親の言いつけに対し反抗的な発言や態度で返して来ます。これは子どもの成長した証（今迄より自我が芽生え自立して来ていること。）でもありますが、親自身が子どもへの接し方を変える時ですよと子どもからのメッセージであると言うことです。

子育て四訓では、乳児期：肌を離すな。幼児期：肌を離しても手を離すな。学童期：手を離しても目を離すな。思春期以降：目を離しても心離すな。と言われています。さて、ここで皆さんは「心離すな！」が出来ていますか。大変難しい質問ですが、要は子どもが何か困難な事態に至った時まっ先に相談できる相手になっていますか。それとも、「自分の親に言ってもどうせ分かってもらえないし。」となっていませんか。つまり、親子の会話が成り立っていますか？と言うこと、本音の交流が出来ていますか？となります。

3　あるお母さんから「うちの子はサッカークラブに通っているけれど全然上手くならないて、レギュラーにはとても成れないの、本人は楽しいと言っているけれど向いてないのかなぁ。」という話がありました。その子から話を聞いてみました。「サッカーのどんなところが好きですか？」すると彼は「僕は戦術を考えるのが好きで刻々と変わるフォーメーションに対しポジションの選手をこう動かしてボールをどう廻してゴールを決める。これを常に考えるのが面白くて。」と話したそうです。親御さんとしては思いもつかなかったことで、彼の秀でた才能の一つです。つまり普段の会話の中で「サッカー好き、面白い？」「うん、楽しいよ。」ここで終わってしまうと彼の才能を見出すことは出来ません。では、こう聞いたら「サッカー好き、面白い、どんなところが好きなの？」「うん、戦術を考えることがとても楽しい。」となれば彼は将来代表監督やコーチに向いてるかも！と先の可能性について見出すことが出来ます。

子どもには失敗や挫折の経験が必要だ。正しくは失敗や挫折から立ち直る経験、誰しも人生順風満帆とはいきません、勉強が出来る子も上級学校に行ったら、今迄何でも一番で来た子が自分より出来る学生がいて二番になったとたん上には上がいるという現実が受け入れられず落ち込んでしまう子もいます。ましてや挫折から立ち直れず心が折れたままであると人生台無しになってしまうこともあり得るのです。挫折から立ち直る経験を持っていれば次にやるべきことが見えて立ち直りが早く社会に順応出来る力が育まれているこ

とが分ります。どうですか、お子さんには失敗する経験も大切であること、本人のモチベーションを下げない様に応援し接すること、親子の会話を維持すること、話の内容は何でも構いませんが押し付けは、いけませんむしろ「なぜそれが好きなの。」「これどうすればいいかな。」とか目線を同じ高さで話すことが肝要ではないでしょうか。

先日、高P連大会の席上生徒作文の朗読があり、起立性調節障害を中学生の頃から患った女子生徒の作文が読み上げられました。その中で「学校に行きたくても行けない。両親にも分かってもらえない。」友達とも疎遠になり、本人は今の辛く苦しい状況を分かって欲しい。に対し両親は「障害についての本を渡しました。」この時本人は「なぜ、この本を渡されたのだろう。私は見捨てられた！」と感じたそうです。この時あなただったら起立性調節障害を素直に受け止められますか？体がだるい、起きられない、つい「気合いだ根性出せ！」とか「サボってんじゃねーよ！」とか言いませんか考えて見て下さい。彼女は体調が思わしくない中で自宅から近く通学が何とか出来そうな工業高校に進学しました。体調が回復して行く中で「出来ることは何でも挑戦しよう。」と前向きに考え、物づくりコンテストにも挑戦することが出来ました。この経験を通して、今言えることは、「 そこで人生がダメになることは無く辛さや苦しさは通過点で あって全てでは無い 。」と云うこと「将来は健康を維持出来ない理由で挑戦する場面を奪われる生徒を救いたい。」と教師への道を目指しているとのことです。如何ですか挫折から立ち直る力を身につけましたね。彼女はすばらしい教育者になるでしょう。

✿改めてコミュニケーションの大切さと、子どもの成長期に於ける接し方を学ぶことが出来たことに感謝します。相模原中等教育学校PTAの皆さん無理なお願いを受け入れていただき誠にありがとうございます。

それでは、皆さんよい冬休みを！また、受験生の皆さんもう一踏ん張り、でも親子の会話を忘れずに！一息つきたいときはコーヒーでも飲んでリフレッシュしましょう。自分の体と向き合うことも勉強です。クリスマスや正月休みを有意義にお過ごしください。次回は新年号でお会いしましょう。

神奈川総合産業高等学校サポーターズ会長でした。